

第20回議会運営委員会会議記録

【開催日時】 平成26年7月7日(月) 午後1時30分開催
午後3時10分散会
(午後2時30分から午後2時40分まで休憩)

【開催場所】 第一委員会室

【出席委員】

委員長	大井 淳一朗	副委員長	石田 清廉
委員	河崎 平男	委員	下瀬 俊夫
委員	矢田 松夫		

【欠席委員】 なし

【委員外議員等】

議長	尾山 信義	副議長	三浦 英統
傍聴議員	山田 伸幸		

【事務局出席者】

局長	古川 博三	次長	清水 保
庶務調査係長	島津 克則	議事係長	田尾 忠久
議事係主任主事	原川 寛子		

【付議事項】

- 1 一般質問の形式について
- 2 その他

【議事の概要】

- 1 一般質問の形式について

(1) 視察の検証について

- ・6月23日に下関市議会に一般質問の一问一答方式の視察に行ったことを受けて各委員から意見を聞く。
- ・会派改進黨の河崎平男委員から一问一答方式は市民にとってもわかりやすくよい旨の発言があった。
- ・会派日本共産党の下瀬俊夫委員から一问一答方式は質問と答弁がかみ合って非常に充実感があった旨の発言があった。
- ・会派市民クラブの矢田松夫委員から一问一答方式はもう少し緊張感があると思っていた。あまり迫力がなかった。時間も余る。うちと余り変わらない旨の発言があった。

- ・会派誠風の石田清廉副委員長から一問一答方式はスムーズで無駄がなくてよかったが、シナリオができていながら市民にとってはおもしろくない旨の発言があった。
- ・大井淳一郎委員長から視察報告書を作成して全協で発表したい旨の発言があった。

(2) 6月定例会の一般質問の総括について

- ・大井淳一郎委員長から6月定例会における一般質問者の壇上での質問時間と執行部の答弁時間について説明があり、およそ20分程度費やしている旨の発言があった。
- ・河崎平男委員から重複質問は調整すべきという旨の意見があった。

(3) 一般質問の形式について

- ・大井淳一郎委員長から一般質問の形式については一問一答方式の導入で一致しているが、壇上で質問を行うかどうかなど決まっていなところは本日結論を出したい旨の発言があった。
- ・河崎平男委員から会派の意見として、壇上で趣旨説明を行い、質問席にて一問一答方式を取り入れるべきとの発言があった。
- ・大井淳一郎委員長から壇上で趣旨説明を行う理由は何かと発言があった。
- ・河崎平男委員から流れの中で趣旨説明をしたほうがわかりやすいのではないかと説明があった。
- ・大井淳一郎委員長から壇上で行う理由は何かと発言があった。
- ・河崎平男委員から壇上という重みのあるところで行いたい旨の説明があった。
- ・下瀬俊夫委員から質問を聞いている一般市民にわかりやすくするのが議会改革の趣旨である。誰のために変えるのかを考えたときに、議員のためではなく市民のために変えるという点でいえば、質問と答弁で20分費やすのは一般市民にはわかりにくいのではないかと。この20分は無駄である旨の発言があった。
- ・矢田松夫委員から壇上で行うことは、パフォーマンスにしか見えない旨の発言があった。
- ・石田清廉副委員長から会派の意見として、議会改革の点で妥協してもよい旨の発言があった。
- ・暫時休憩となった。
- ・休憩後、河崎平男委員から質問席からの一問一答方式に賛同する旨の発言があった。
- ・下瀬俊夫委員から一問一答方式における執行部の負担感はどうかと発言があった。
- ・事務局から執行部も1つのくりごとに質問を行えばスムーズに回答できるのではないかと説明があった。
- ・矢田松夫委員から1項目ごとに答弁を引き出していくほうがよい。そのためには事前のすり合わせを十分にやっていくことも大事である旨の発言があった。
- ・下瀬俊夫委員からとりあえずやってみて、総括しながらやっていくべきとの意見があった。

- ・石田清廉副委員長から一問一答方式を導入するなら、一般質問の時間を70分から60分にしてはどうかとの提案があった。
- ・大井淳一郎委員長から後日議論したい旨の発言があった。
- ・9月議会は、1つのくりごとの一問一答方式を導入することとなった。

2 その他

- ・「会派について見直しのお願ひ」について各会派で議論していく。
- ・議会基本条例の検証について各会派で議論していく。

平成26年(2014年)7月7日

議会運営委員会委員長 大井 淳一郎